



署内 元気な岩北署コーナー

「地域にとって有って良かったと思われる岩北署」 -21総集編-



署長 すのほら たけし 春原 武志

岩手北部森林管理署は、荒屋新町と言う山村地域の最前線に位置するため、山村地域の現状や課題を実際に目で見て、耳で聞くことができ、その解決案を国有林のフィールドを使って試すことができる、と言う他の行政機関にはない大きな特徴を持っています。

21年度も、「地域にとって、有って良かったと思われる岩北署」の実現を目指し、職員一人ひとりが地域を少しでも良くするために、地域を第1に考え行動してきました。

21年度最終版では、今年度の取組を振り返り、それぞれの取組状況を検証したいと思います。良かった点は更に伸ばし、もうチョットだった点は改善し、来年度も、「美しい森林 元気な山村 頑張る岩北署」を合言葉に更なる挑戦を続けていきたいと思ひます。

1 地域に信頼される職場をつくるH21!

地域の皆さんと協働で美しい森林づくりを進めていくためには、地域の皆さんに信頼され、頼りにされる岩北署であることが不可欠なので、本年度は、職員一人ひとりが行動する時の手引きとなるよう行動指針を作成しました。



岩北署は暖かいですよ～

署にきた人、電話してきた人が「気持ち良いと感じてもらえる」職場にする。美しい森林づくりに当たっては、地域の人達の声が反映できるようにする。自分達が手がける美しい森林づくりを地域の人達に分かってもらえるように説明する。

美しい森林づくりは、地域の人達の声を聴きながら、常に見直しを行う。一人一人が美しい森林づくりのために何をすべきかを考えて行動をする。美しい森林づくりに対して、誰もが自由に意見が言える職場にする。

2 低炭素社会を図るH21!

「低炭素社会」とは、地球温暖化の主な原因とされる温室効果ガスの1つ、二酸化炭素の最終的な排出量が少ない産業・生活システムを構築した社会を言います。低炭素社会を実現するためには、二酸化炭素の排出量を減らすとともに吸収量を増やすことが重要です。二酸化炭素の吸収量を増やすためには、二酸化炭素をたくさん吸収する元気な森林を守り育てることが有効な手段です。



間伐箇所でのクマタカの採餌痕

当署管内には、約 3.3 万 ha の国有林があり、人工林と天然林がほぼ半々となっています。天然林は、保安林などに指定し、将来とも森林としてしっかり守られるよう、保護管理をしています。

また、人工林は、京都議定書の第1約束期間である平成24年度までに「森林吸収目標1,300万Ct」の達成を目指し、集中的な森林整備を進めています。また、森林整備に当たっては、針広混交林・広葉樹林への誘導等多様な森林づくりを進めており、本年度は、除伐や間伐、本数調整伐などの森林整備を約1.2千ha実施しました。

昨年度も約千haの森林整備をしていますので、今後は、二酸化炭素を吸収する元気な森林がどのくらい整備できたのかが、地域に皆さんに実感してもらえように工夫してみたいと考えています。

3 林業再生を図るH21!

林業を再生させるには、木材の需要を増やすとともに、いまの木材価格でも山に利益が還元できる仕組みが必要です。間伐材は、細い木や曲がった木が多いので、従来のようにチェーンソーでの伐採や造材、トラクターでの集材だとコストが高くなりますし、木材として使われずにそのまま林内に放置されてしまいます。



ハーベスタによる伐採作業

結果、折角の貴重な資源が使われないまま腐ってしまうこととなります。

そのため、これまで捨てられてきた間伐材が有効に使われるよう、列状間伐、高性能林業機械、高密度路網の三つを組み合わせた高効率な間伐作業システムにより、安いコストで多くの間伐材を生産していく必要があります。

21年度は、安比岳、八幡平、苗代沢、矢神岳の4団地において、約220haの間伐を行ないながら、約1.1万m³の間伐材を生産を行ないました。特に安比岳団地においては、伐倒作業もハーベスタで行なうなど作業システムを工夫した結果、労働生産性が約8m³/人日と従来の2~3倍にアップし、国有林間伐推進コンクールで優秀賞を受賞しました。

今後、モデル林として、意見交換の場として活用を図っていきます。

4 安全・安心な山村の実現を図るH21!

治山工事は、地域住民の生命、財産を守る上で、重要な役割を果たしています。山地災害の危険性の高い箇所を早期に解消していくことを目標に、本年度は、安比川、安比川第2、小杉沢、ネデノ沢、兄川、丑山沢の6地区の治山工事を行うとともに、兄川、安比川、折合沢の3地区の調査を実施しました。これらの工事は、奥山で行っており、普段は目に付きませんので、田山・安代両小学校の5年生を対象とした森林教室では、建設中の治山堰堤に登ってもらい、山崩れを防ぐ作業を肌で感じてもらいました。

また、自然環境に調和させるとともに、二酸化炭素を木材の形で長く貯蔵するため、残置型木製枠工法を積極的に採用しました。



模型を使った治山ダムの実験



安比川治山工事箇所（施工後）

林道は、美しい森林を作るために不可欠な施設であるとともに、山火事の消火、山地災害の復旧作業などの緊急時での作業や国道や県道の迂回路としても大きな役割を果たします。このため、安全に通行できるように、本年度は、七時雨、白沢、高倉沢、小長崎、黒

倉沢、尻高ほか 5、安比、三本岳、母沢林道での 9 件の改良工事を、御月、黒倉沢ほか、芦名沢、田沢杉ノ沢林道で 4 件の調査設計を、秋田越え、茂谷地作業道の林道格上げ工事を行ないました。今後、適切な森林整備を進めていくためには、民有林と連携した計画的な整備を進めていく必要があります。



黒倉沢林道改良工事（施工後）

5 豊かで多様な森林を活用した地域振興を図るH21！



ササやかん木の焼却作業（安比）

八幡平市の安比高原は、人と家畜が長い時間をかけて作った草地景観が特徴ですが、放牧が行われなくなってから、少しずつ草原が減少しています。そのため、八幡平市と「あっぴ高原遊々の森」を設定し、八幡平市が中心となり、地元ボランティアによるかん木の刈払いに取り組んできました。その結果、ヤナギランなど多くの草原の植生が復活してきました。このため、地元ボランティアの皆さんと意見交換をしながら、

安比高原の素晴らしさを多くの人に知ってもらい、自然と触れ合う場として活用してもらうこととしています。

また、丑山・根石両牧野においては、クマタカなどの多くの野生動物がすむ豊かな未来の森林づくりを進めるため、本年度から 5 カ年計画で「天然更新を活用した牧草地の森林化技術」の開発に取り組んでいます。二戸市には、全国的に珍しいウルシの分収造林がありますので、日光東照宮などの文化財の修復ために脚光を浴びている浄法寺漆の振興に寄与できればと考えています。一戸町の平糠には、北限のイヌブナ群生林がありますので、一戸町の文化財を核にした町づくりに引き続き貢献していきたいと考えています。葛巻町の風力発電施設に隣接した上外川国有林では、カラマツ人工林を活用した妖精のすむ森林として、農業や酪農体験と連携した新たな体験学習の場とフィールドを整備したので、来年度は、関係者との連携を密にして有効な活用を図っていきます。

来年度も、「径寸十枚、国宝にあらず。一隅を照らす人、これ国宝なり（最澄）」を実践し、「地域にとって、有って良かったと思われる岩北署」を目指していきます。

6 平成 21 年度の安全対策等を振り返って

今年度も残り少なくなり、年度末の締めや新年度に向けた検討などに忙しい毎日となり、職員の皆様にご尽力いただいていることに対しまして、あらためてお礼を申し上げます。

さて、今年度の安全に関して振り返ってみますと、年度当初における無災害記録目標を「2,353日（平成15年10月22日より）」と定め、皆様のご協力の下で今年度を締めくくることができそうです。

しかしながら、請負事業においては、監督員からの安全指導に加え、署長等による安全指導等も実施してきたところですが、不幸にも2件の災害が発生してしまいました。

9月21日11時30分頃、「保育間伐（存置型）」の伐倒作業中、ツルがらみの木の処理方法が悪く、伐採木が肩と背中に当たって受災（局第9号）

10月16日13時15分頃、「緑の回廊整備特別対策事業」の刈払作業中、刈払い機のキックバックにより刃先が右足親指を受災（局第15号）

また、3月10日には本署勤務の臨時職員が帰宅途中、積雪等により足を取られて転倒した際、左足首付近を骨折するという通勤災害（第2号）が発生したところです。

「管内では直営・請負ともに絶対災害を起こさない」を目標に、直営のみならず請負事業体の安全指導等についてもより効果的な方法等を検討して参りたいと考えておりますので、引き続きご協力をお願いします。



次長 滝澤 久崇

4月1日から新たに無災害目標が設定されます、気を引き締め無災害を継続しましょう!!

無災害目標 2,718日 平成23年3月31日まで



あっぴー君

平成21年度の主な取組～豊かで多様な森林を活用した地域振興へ～

森林環境教育サービスパックを活用した総合的な森林学習の実施

森林環境教育サービスパックを活用して、「あっぴ高原遊々の森」を中心に八幡平市内の田山・安代・松野小学校が延べ10回の森林教室を実施し、その成果が各小学校の学習発表会で発表されました。

田山小学校は東北森林管理局主催の森林・林業技術交流会において「森林の秘密」と題して発表し、特別賞を受賞しました。

この総合的な森林学習の取り組みについては、当署の目玉として、学校サイドとの相互コミュニケーションを図りながら息の長い取組として推進していきます。



森林環境教育パック2(DVD)



草原の植物を観察中

天然更新を活用した牧草地の森林化技術の開発



秋：地がきをした丑山牧野

この技術開発は、200haにも及ぶ休止中の広大な牧野を、低コストで多様な野生動物が棲む豊かな森に再生させることを目指し、八幡平市と連携して取り組んでいるもので、平成21年度からスタートし5ヶ年計画で実施しています。「豊かな未来の森林の植樹祭」と題し、丑山牧野において、6月7日(日)、八幡平市との共催で植樹祭を開催しました。

八幡平市細野・渋川森林愛護少年団、盛岡農業高校の生徒を含めた80名の市民が参加し、ブナ、ナラ等の苗木を植樹しました。

植樹祭には、これからも多くの市民の方に参加していただき、豊かな森林づくりに励んでいきます。



豊かな未来の森林の植樹祭

地元ボランティアとの意見交換を踏まえた「あっぴ高原遊々の森」の整備

10月28日(木)、協定を締結している八幡平市との共催により、市民ボランティア等70名の参加を得て、「あっぴ高原遊々の森」において、かん木の刈払い等の環境整備を行いました。また、広く地元住民を巻き込んだフィールド整備イベントの今後の進め方について、参加者と意見交換会を行いました。



「ブナの駅」での意見交換会



かん木の刈払い、焼却

流域合同間伐講習会

7月29日(水)、リハビリ牧場近くの安比岳国有林において、馬淵川上流流域及び北上川上流流域森林・林業活性化センターとの共催により、流域合同の「間伐講習会」を開催しました。

当日は、両流域の関係者約70名が参加、管内では初めてとなる、列状間伐と高性能林業機械及び高密度路網を組み合わせた高効率な間伐作業システムについて、実演を交えながら、同システムの普及・定着を図るための意見交換を行いました。



流域合同間伐講習会

林業事業体との意見交換会

(1) 素材・立木販売意見交換会

4月15日(水)、当署会議室において、需要者ニーズを踏まえた素材や立木の販売を図るため、関係業界等32名が参加し、素材・立木販売意見交換会を開催しました。

この意見交換会は平成19年度から実施しているもので、参加者からは、販売の計画が早くわかれば事業体としても計画を立てやすくなるので、来年度以降も続けてほしいとの要望が出されました。



素材・立木販売意見交換会



民国連携による利用間伐意見交換会

(2) 民国連携による間伐推進に係る意見交換会

2月9日(火)、当署会議室において民国連携による間伐推進に係る意見交換会を開催、関係業界等21名が出席し、署側から森林・林業再生プラン及び平成21年度からの5ヵ年間の間伐等の森林整備について説明後、民有林と連携しながら間伐を進めて行くためにはどのような取り組みが必要か等についての意見交換を行いました。

民有林との間伐を進めていくためには、森林施業共同団地の設定を提案していくことが必要となるので、具体的箇所を想定し、実現に向けた課題を解決していくこととしています。

葛巻町における交流体験の森の整備

農水・文科・総務の3省連携による「子ども農山漁村交流プロジェクト」の受入モデル地域である葛巻町の上外川国有林に、カラマツ人工林を活用した「上外川学習教育林～妖精のすむ森～」を設定、指導者養成の学習会等を実施することとしています



整備された遊歩道



妖精のすむカラマツ林

**「奥羽山脈緑の回廊」における
ビデオカメラによるモニタリングの実施**

「緑の回廊」に生息する鳥獣類の生息状況を明らかにするため、平成12年度から昼間用ビデオカメラ1台、夜間用暗視ビデオカメラ1台を設置し、森林総合研究所と連携してモニタリングをしています。

このモニタリングにより、「緑の回廊」がツキノワグマなどに利用されていることが確認され8月24日(月)、宮城県仙台市で開催された東北森林科学会において、報告されました。



暗視カメラ

**森林総合研究所との協同研究による
「安比二酸化炭素動態調査」の実施**

地球温暖化を防止する上での森林の働きを明らかにするため、安比ブナ二次林において、二酸化炭素の動態調査を森林総合研究所との協同研究により実施しています。



安比ブナ二次林の二酸化炭素観測タワー

署内勉強会

7月7日(金) 安比岳国有林素材生産請負箇所においてスイングヤードの勉強会を実施し、スイングヤードによる集材の実演を見ながら、メリット、デメリットについての意見交換を行いました。

また、八幡平国有林1林班において、署の事業関係者が参加し、高齢級間伐林分における選木方法について勉強会を実施しました。



スイングヤード勉強会

優秀賞受賞 森林・林業技術交流会

「上外川学習教育林の整備について」

～妖精の住む森をめざして～

平成21年度森林・林業技術交流会(森林ふれあい部門)で田口暁史(浄法寺森林官)さんと、木村雄大(新町森林官)さんが共同研究成果を発表し、優秀賞を受賞しました。



森にすむ妖精



田口浄法寺森林官・木村新町森林官

**岩北の若き精鋭の皆さん
今年もご苦労様でした**

徒歩片道2時間かけて緑の回廊モニタリング施設小屋の屋根の雪下ろしへ、岩北の若き精鋭(平舘さん・奈良さん・木村さん・下舘さん・大沢さん)が積雪約2mの除雪作業を行いました。



署員

4月 行事予定

- 1日 辞令交付
事業説明
安全指導
- 13日 定例出署日
素材・立木販売意見交換会



福寿草

